

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	2023年11月14日
【四半期会計期間】	第76期第2四半期（自 2023年7月1日 至 2023年9月30日）
【会社名】	株式会社桜井製作所
【英訳名】	SAKURAI LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 桜井 成二
【本店の所在の場所】	静岡県浜松市東区半田町720番地
【電話番号】	（053）432-1711（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理部部長 白澤 猛
【最寄りの連絡場所】	静岡県浜松市東区半田町720番地
【電話番号】	（053）432-1711（代表）
【事務連絡者氏名】	経営管理部部長 白澤 猛
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次		第75期 第2四半期 連結累計期間	第76期 第2四半期 連結累計期間	第75期
会計期間		自2022年 4月 1日 至2022年 9月30日	自2023年 4月 1日 至2023年 9月30日	自2022年 4月 1日 至2023年 3月31日
売上高	(百万円)	2,150	3,076	4,598
経常損失()	(百万円)	142	74	290
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純損失()	(百万円)	160	75	306
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	170	48	268
純資産額	(百万円)	4,750	4,639	4,644
総資産額	(百万円)	7,315	8,364	7,808
1株当たり四半期(当期)純損 失金額()	(円)	43.80	20.80	83.85
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	64.9	55.5	59.5
営業活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	79	584	472
投資活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	220	228	762
財務活動によるキャッシュ・フ ロー	(百万円)	96	437	625
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高	(百万円)	776	1,369	566

回次		第75期 第2四半期 連結会計期間	第76期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自2022年 7月 1日 至2022年 9月30日	自2023年 7月 1日 至2023年 9月30日
1株当たり四半期純利益金額又 は1株当たり四半期純損失金額 ()	(円)	37.77	1.41

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の5類への移行によって、社会経済活動の平常化に向けて動き始めていますが、原材料価格の高騰や、急激な円安進行、ウクライナ情勢の長期化等によるサプライチェーンの混乱等、先行き不透明な状況が続いております。

このような状況の中、当第2四半期連結累計期間の売上高は、3,076百万円（前年同期比43.1%増）となりました。セグメントごとでは、自動車部品製造事業が汎用機部品等の増加により2,101百万円、工作機械製造事業が専用工作機械等の増加により975百万円となりました。

利益面につきましては、工作機械製造事業においては、売上高は増加しているものの引き続き原材料高騰などの影響を大きく受けました。自動車部品製造事業においては、近年のエネルギー価格高騰に対する製品への価格転嫁が進んだ結果、前年同期と比べ損失は縮小し、営業損失は166百万円（前年同期は営業損失253百万円）となりました。経常損失は、上記と同様の理由により74百万円（前年同期は経常損失142百万円）となりました。その結果、親会社株主に帰属する四半期純損失は75百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失160百万円）となりました。

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、現金及び預金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ556百万円増加し、8,364百万円となりました。

負債につきましては、短期借入金が増加したこと等により、前連結会計年度末に比べ560百万円増加し、3,725百万円となりました。

純資産につきましては、利益剰余金が減少したこと等により、前連結会計年度末に比べ4百万円減少し、4,639百万円となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は、1,369百万円となっております。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは584百万円の獲得（前年同期は79百万円の使用）となりました。これは主に減価償却費計上及び棚卸資産の減少等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは228百万円の使用（前年同期は220百万円の使用）となりました。これは主に有形固定資産の取得による支出によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは437百万円の獲得（前年同期は96百万円の使用）となりました。これは主に短期借入金の純増減額による収入によるものであります。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等及び経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は、2百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数(株) (2023年9月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年11月14日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,000,000	4,000,000	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数 100株
計	4,000,000	4,000,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額 (千円)	資本準備金残 高(千円)
2023年7月1日～ 2023年9月30日		4,000,000		100,000		126,263

(5) 【大株主の状況】

2023年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
桜井興産株式会社	浜松市中区新津町130	920	25.52
桜井取引先持株会	浜松市東区半田町720	381	10.57
櫻井 美枝子	浜松市中区	317	8.80
株式会社不二	浜松市中区神田町1179	260	7.23
櫻井 成二	浜松市中区	143	3.97
桜井製作所従業員持株会	浜松市東区半田町720	94	2.62
前田 順子	東京都千代田区	70	1.97
株式会社古橋	浜松市南区安松町37-15	64	1.78
池崎 弘昌	鹿児島県鹿屋市打馬	40	1.11
有限会社 大庭製作所	磐田市豊岡6102-2	38	1.07
計	-	2,329	64.63

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2023年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 395,000	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,603,900	36,039	-
単元未満株式	普通株式 1,100	-	-
発行済株式総数	4,000,000	-	-
総株主の議決権	-	36,039	-

(注) 「単元未満株式」には当社所有の自己株式37株が含まれております。

【自己株式等】

2023年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合 (%)
株式会社桜井製作所	浜松市東区半田町720	395,000	-	395,000	9.88
計	-	395,000	-	395,000	9.88

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表についてアーク有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	566,094	1,369,234
受取手形及び売掛金	813,698	605,551
電子記録債権	18,859	54,013
製品	98,041	105,096
仕掛品	792,474	521,080
原材料及び貯蔵品	98,047	124,987
その他	67,893	100,082
貸倒引当金	698	599
流動資産合計	2,454,410	2,879,447
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	946,391	924,851
機械装置及び運搬具(純額)	1,666,676	1,801,511
土地	729,674	733,203
建設仮勘定	538,885	299,048
その他(純額)	99,255	111,539
有形固定資産合計	3,980,884	3,870,154
無形固定資産	51,434	41,658
投資その他の資産	1,321,406	1,572,902
固定資産合計	5,353,725	5,484,715
資産合計	7,808,135	8,364,163

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	461,139	347,392
短期借入金	900,000	1,638,867
1年内返済予定の長期借入金	451,278	373,412
未払法人税等	936	468
賞与引当金	46,323	50,092
その他	271,009	349,306
流動負債合計	2,130,687	2,759,540
固定負債		
長期借入金	481,723	314,911
役員退職慰労引当金	8,552	8,552
退職給付に係る負債	196,455	209,694
資産除去債務	65,784	69,906
その他	280,864	362,432
固定負債合計	1,033,380	965,496
負債合計	3,164,067	3,725,036
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	126,263	126,263
利益剰余金	4,522,666	4,410,978
自己株式	188,571	205,219
株主資本合計	4,560,359	4,432,023
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	204,989	366,203
繰延ヘッジ損益	-	1,411
為替換算調整勘定	121,280	157,688
その他の包括利益累計額合計	83,709	207,103
純資産合計	4,644,068	4,639,126
負債純資産合計	7,808,135	8,364,163

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	2,150,312	3,076,682
売上原価	2,087,921	2,923,668
売上総利益	62,391	153,013
販売費及び一般管理費	315,805	319,863
営業損失()	253,413	166,849
営業外収益		
受取利息	44	82
受取配当金	10,550	10,196
受取賃貸料	26,630	27,093
為替差益	63,955	48,151
売電収入	15,381	15,174
補助金収入	3,500	1,174
雑収入	9,398	9,536
営業外収益合計	129,461	111,408
営業外費用		
支払利息	2,972	5,506
賃貸収入原価	10,570	8,618
売電費用	4,130	3,688
雑損失	1,277	1,583
営業外費用合計	18,950	19,396
経常損失()	142,903	74,837
特別利益		
固定資産売却益	611	-
特別利益合計	611	-
特別損失		
固定資産廃棄損	0	0
貸倒損失	17,378	-
特別損失合計	17,378	0
税金等調整前四半期純損失()	159,670	74,837
法人税、住民税及び事業税	468	468
法人税等合計	468	468
四半期純損失()	160,138	75,305
親会社株主に帰属する四半期純損失()	160,138	75,305

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失()	160,138	75,305
その他の包括利益		
其他有価証券評価差額金	34,196	161,213
繰延ヘッジ損益	5,548	1,411
為替換算調整勘定	18,494	36,407
その他の包括利益合計	10,153	123,394
四半期包括利益	170,292	48,088
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	170,292	48,088

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失()	159,670	74,837
減価償却費	334,458	348,137
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	660	13,239
賞与引当金の増減額(は減少)	7,470	3,769
受注損失引当金の増減額(は減少)	19,306	-
貸倒引当金の増減額(は減少)	68	99
受取利息及び受取配当金	10,594	10,279
支払利息	2,972	5,506
固定資産廃棄損	0	0
固定資産売却損益(は益)	611	-
補助金収入	3,500	1,173
為替差損益(は益)	323	2,071
売上債権の増減額(は増加)	40,232	180,393
棚卸資産の増減額(は増加)	369,200	241,774
仕入債務の増減額(は減少)	94,277	124,513
未払又は未収消費税等の増減額	16,304	84,096
貸倒損失	17,378	-
その他	28,260	84,853
小計	86,718	579,090
利息及び配当金の受取額	10,594	10,279
利息の支払額	2,972	5,506
法人税等の支払額	3,466	936
補助金の受取額	3,500	1,174
営業活動によるキャッシュ・フロー	79,061	584,100
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	235,728	254,536
有形固定資産の売却による収入	1,718	-
投資有価証券の取得による支出	9,170	8,831
無形固定資産の取得による支出	10,844	700
その他	33,281	35,387
投資活動によるキャッシュ・フロー	220,742	228,681
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額(は減少)	200,000	738,867
長期借入金の返済による支出	239,232	247,448
自己株式の取得による支出	1,733	16,647
配当金の支払額	54,876	36,382
リース債務の返済による支出	929	929
財務活動によるキャッシュ・フロー	96,772	437,459
現金及び現金同等物に係る換算差額	18,380	10,261
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	378,196	803,139
現金及び現金同等物の期首残高	1,155,010	566,094
現金及び現金同等物の四半期末残高	776,813	1,369,234

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
給与及び手当	83,869千円	80,339千円
賞与引当金繰入額	9,007	10,458

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
現金及び預金	776,813千円	1,369,234千円
現金及び現金同等物	776,813	1,369,234

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	54,876	15	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

配当に関する事項

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2023年6月28日 定時株主総会	普通株式	36,382	10	2023年3月31日	2023年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	自動車部品製造 事業	工作機械製造 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,913,351	236,960	2,150,312	-	2,150,312
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	554	554	554	-
計	1,913,351	237,514	2,150,866	554	2,150,312
セグメント利益又は損失 ()	1,998	255,412	253,413	-	253,413

(注) セグメント利益又は損失と四半期連結損益計算書の営業損失に差異はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	自動車部品製造 事業	工作機械製造 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,101,116	975,566	3,076,682	-	3,076,682
セグメント間の内部売上高 又は振替高	-	1,100	1,100	1,100	-
計	2,101,116	976,666	3,077,782	1,100	3,076,682
セグメント利益又は損失 ()	40,239	207,088	166,849	-	166,849

(注) セグメント利益又は損失と四半期連結損益計算書の営業損失に差異はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	自動車部品製造事業	工作機械製造事業	計	
日本	1,449,758	178,794	1,628,552	1,628,552
北米	-	5,397	5,397	5,397
ベトナム	463,593	-	463,593	463,593
アジア	-	21,223	21,223	21,223
その他	-	31,545	31,545	31,545
顧客との契約から生じる収益	1,913,351	236,960	2,150,312	2,150,312
外部顧客への売上高	1,913,351	236,960	2,150,312	2,150,312

当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	自動車部品製造事業	工作機械製造事業	計	
日本	1,657,416	320,673	1,978,090	1,978,090
北米	-	11,892	11,892	11,892
ベトナム	443,699	-	443,699	443,699
アジア	-	530,643	530,643	530,643
その他	-	112,356	112,356	112,356
顧客との契約から生じる収益	2,101,116	975,566	3,076,682	3,076,682
外部顧客への売上高	2,101,116	975,566	3,076,682	3,076,682

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
1株当たり四半期純損失金額()	43円80銭	20円80銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	160,138	75,305
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
親会社株主に帰属する四半期純損失金額() (千円)	160,138	75,305
普通株式の期中平均株式数(株)	3,655,738	3,619,538

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

(投資有価証券の売却)

当社は、2023年10月以降当社が保有する投資有価証券の一部を売却しております。これにより当連結会計年度の第3四半期連結会計期間より投資有価証券売却益(特別利益)を計上する見込みであります。

1. 投資有価証券の売却理由

保有資産の効率化及び財務体質の強化を図るため。

2. 投資有価証券の売却の内容

- (1) 売却株式 : 当社保有の上場有価証券9銘柄
- (2) 投資有価証券売却益の発生時期: 2024年3月末まで(予定)
- (3) 投資有価証券売却益: 約300百万円(見込み)

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年11月14日

株式会社桜井製作所

取締役会 御中

アーク有限責任監査法人
東京オフィス

指定有限責任社員 公認会計士 二階堂 博文
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 山本 博生
業務執行社員

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社桜井製作所の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2023年7月1日から2023年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社桜井製作所及び連結子会社の2023年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業的前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれておりません。